

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

木造だけじゃないカレッジ教育 卒業生によるガラスの授業も



吉野硝子工業所（大田区）の吉野大介社長は第4期生。年1回の授業でガラスの話をしています。

吉野さんの授業は、自身の20代カレッジ生時代のエピソードから始まります。職種も様々、中には一級建築士もいた第4期生の当時のエピソードに、後輩たちは興味津々です。現場でガラスを身近に感じている人も多く、「自分の担当の現場ではガラスの依

東京建築カレッジは、伝統的な大工実技実習をカリキュラムの柱にしていますが、木造建築以外の授業もたくさんあります。例えば、6月5日の1年生（第30期生）の授業では、大田区でガラス専門工事業を営む吉野大介さんがガラスの話をたっぷり語りました。

正しい知識を学ぼう「熱中症予防教育」

東京建築カレッジは、「労働安全衛生法」が定めた安全衛生教育を2年間の在校中、6つ行います。「熱中症予防教育」はその中の1つ。6月5日に今年度の特別授業がおこなわれました。今年は6月から熱中症対策が罰則付きで義務化されました。

この授業を担当したのは渡辺義久理事長。本校の母体、東京土建一般労働組合の副委員長です。タイル工として長年働く中で仕事での様々なケガや健康被害を目の当たりにしており、話は具体的で説得力があります。

【主な内容】

熱中症とは／職場における熱中症／熱中症の仕組みと症状、対応が遅いと現代の医学でも元の身体には戻せない／予防方法（暑さ指数WBGT活用、具合が悪い人への対象方法など）／予防活動。



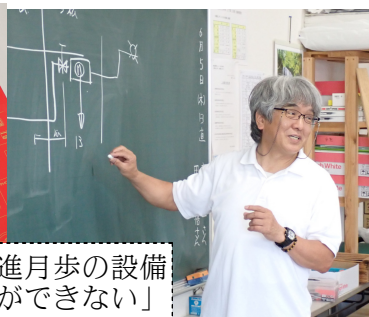
最新設備も学習

同日、2年生（第29期生）は「建築設備」の授業を受けました。設備機器の最新情報が豊富

頼は多い。お客様に説明できるようになり、ためになる授業だった」（施工管理）、「窓ガラスにもたくさん種類があることを知った」（大工）、「今年度から、省エネ等級の最低基準が引き上げられた学んでおきたい分野だ」（施工管理）など好評でした。



「現代の住宅の日進月歩の設備を学ばないと仕事ができない」と佐藤里志講師



規矩準縄勾

東京建築カレッジの教育は伝統的な木造建築、大工実技実習だけではなく、現代の住宅建築に求められる建材の種類や機能、設備の進歩を学ぶカリキュラムも充実させています。

な図解で分かりやすくまとめた『建築設備パーフェクトマニュアル』が教科書です。省エネ性能や太陽光発電をはじめ、新築でもリフォームでも身近に感じる機器ばかり。熱心に聞く姿が印象的でした。

東京建築カレッジの卒業生は、高レベルの大工を志す人は少なくないと思いますが、砥ぎの技術が必須の道具をあまり使わなくなることが背景にあります。カレッジ教育の大切さを感じます。

毎年、夏から秋にかけて「四方転び踏み台」を課題とする青年技能競技大会が全国で開かれています。本校の母体、東京土建が加盟する全建総連の主催。日曜日に講習会を実施、高度な技を持つ建築大工を目指す若者が集まります。▼自分で砥いだ道具を使って高精度なものづくりを追求する魅力は大きく、毎年参加する人も。貴重な休日を使つて練習に励む姿には感動させられます。一定レベル以上の技量に至れば東京予選大会に出場。そこで上位入賞すれば全国大会に進みます。カレッジの新入生の一部もこの講習会に参加、競技大会出場を目指しています。▼ただ気になることも。講習会参加者がカレッジ生や卒業生ばかりであること。

毎年、夏から秋にかけて「四方転び踏み台」を課題とする青年技能競技大会が全国で開かれています。本校の母体、東京土建が加盟する全建総連の主催。日曜日に講習会を実施、高度な技を持つ建築大工を目指す若者が集まります。▼自分で砥いだ道具を使って高精度なものづくりを追求する魅力は大きく、毎年参加する人も。貴重な休日を使つて練習に励む姿には感動させられます。一定レベル以上の技量に至れば東京予選大会に出場。そこで上位入賞すれば全国大会に進みます。カレッジの新入生の一部もこの講習会に参加、競技大会出場を目指しています。▼ただ気になることも。講習会参加者がカレッジ生や卒業生ばかりであること。

1年生の
授業から「基礎製図Ⅱ（建築表現）」で、みんなで考える授業
「砂町銀座商店街の空きスペースで何ができるか」

建築とまちづくりの関係を見つめる教育

「基礎製図Ⅱ（建築表現）」では、紙などの平面に立体物を奥行きを感じられるように描く技法（パース）の基礎を学習する一方、建築とまちづくりの関係を自分の頭で考える技能者を育てる教育をおこなっています。

江東実習場の近くの有名な商店街「砂町銀座商店街」を歩き、空きスペースにどんな施設をどのような建築でつくるか、考えさせる課題もその1つです。



「基礎製図Ⅰ」の最終回では実習棟の紙の模型を作成

客層が高齢者がほとんどであることに着目し、「10年後にシャッター街にならないために、今どうすべきか、考えたい」と話していたグループもありました。

自分の頭で考え、仲間と話し合い、他人に伝わるように意見をまとめる訓練です。

5月31日は雨天でしたが、授業中に商店街に出かけ、商店の様子、通行人の特徴、取り扱い商品別の店舗数などを調べました。グループワークで調査・企画開発し、授業内でプレゼンテーションをさせます。

2年生の
授業から

各専門工事職の体験

- * 型枠・鉄筋
- * 水道設備
- * 左官、* 塗装
- * クロス・襖（ふすま）、
- * タイル * 板金

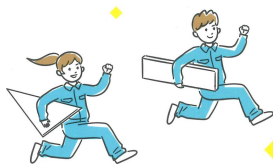


「各職」の実技実習は、どの職種も初めて体験するものばかりなので、研修生に大変人気のある授業です。本校母体の東京土建組合員さんがカレッジのために時間をとって教えるにきてくれます。

「型枠・鉄筋」では業界の新人教育教材を使って座学を受けた後、図面を見ながら鉄筋を折り曲げ、

型枠を組み立てる実習を行ないました。

「左官」では、架台にフェルトとラスをタッカーで貼り下地を製作。そして、セメントと砂、水をかきまぜ、モルタルを作ります。次に、鏝（こて）で鏝板に載せたモルタルをすくい上げ、壁下地に塗っていきます。まず鏝にモルタルを載せるのが難しい。コツをつかもうと、全員集中して実習に取り組んでいました。

7月20日（日）研修生派遣事業所と先生方の合同研修会
相羽建設㈱と住協建設㈱による採用・育成の事例報告も

↑ 相羽建設が参加する産学協働の人財マッチングプロジェクト「工務店ジョブ」

本校は毎年夏に、「カレッジ生の育成・定着」をテーマに合同研修会をおこなっています。参加対象は、研修生派遣事業所、カレッジ職業紹介所 登録事業所と、カレッジ講師・指導員。カレッジ生の育成と職場定着のための学習と意見交流と、研修生派遣事業所と講師・指導員の交流が目的です。今年は7月20日（日）午後に池袋校舎で開催します。

第31期生（来年4月入学生）
入学応募対象者を
ご紹介ください。

「建築カレッジからはじめよう！
建築の仕事」が合言葉です。

学校紹介はこちらから↓

